

6月3日(月)に、本校の研究部6名が鳥取大学の矢部敏昭教授の研究室を訪ね、本年度の研究の在り方について話合いました。これまでの2年間の研究(①教科特有の見方・考え方を明確にしていくこと②学びのプロセス(過程)を具体化していくこと)を生かしながら、日々の実践を重ねることや子供の成長過程をしっかりと見取っていくための取組やその方法について、いろいろな視点で考える貴重な機会となりました。

このように、大学の先生の協力を得ながら研究を進めていくことができるのも附属小の強みです。



鳥取大学 矢部敏昭 教授の研究室にて

～以下、5月以降に行った研修です。～

国語科部は、研究テーマ「言葉でつなぐ魅力的な場の創造を目指した授業づくり」を提案しました。言語活動を通して「人とつながる」「本とつながる」「日常生活とつながる」ことを大切にしたい教育実践の大切さを共有することができました。



国語科の研究提案

国語科部は、本年度より、書写教育の研究も行います。「確かな書写力を身につけ、書こうとする意欲を高める書写の授業づくり」を研究テーマに掲げ、実践を重ねています。硬筆と水書用筆を交互に取り入れ、効果的な学び方を検証していきます。



書写教育の研究提案

社会科部は、研究テーマ「多面的な見方や考え方を身につける児童の育成」を提案しました。①体験的な活動を中心に据えた単元計画について②プラス1(ゆきぶりとなる資料や教材)の効果的な提示について③資料・意見・変化を比較させることについて④発見の視点を広げることについての取組の有効性について検証していきます。



社会科の研究提案

外国語活動・外国語部は、「コミュニケーション能力を育成するための授業づくり」を提案しました。昨年度からの取組である「日常の簡単な表現に慣れ親しませる」「コミュニケーションポイントの活用」の継続と知・考・感を意識した授業の実践を重ねています。



外国語活動・外国語科の研究提案

生活科部では、身近な生活に関わる見方・考え方を生かした授業づくりをテーマに研究を進めています。「思いや願いをもつ」「活動や体験をする」「感じる・考える」「表現する・行為する」のプロセスを繰り返すことで、気づきの質や深い学びにつながるという仮説のもと実践を重ねています。



生活科の研究提案

図画工作科部は、「自分の表したいことを見つけ、試行錯誤する児童の育成～児童の取りにかかりに注目して～」が研究テーマです。導入前、導入、制作に取りかかるまでの指導や手立てについての提案がありました。図工ノートを作成し、児童の変容を見取る取組を続けています。



図画工作科の研究提案

～プログラミング授業実践の紹介～

6月7日（金）に附属小学校において、国語（2年）、理科（4年）、算数科（6年）のプログラミング的思考を働かせた授業提案をしました。校外からの参加者もあり、貴重な意見交換が行われました。授業後の研修会では、よりよいプログラミング教育を求めて、参観した職員によるリフレクション（ふり返し）をしました。



国語科「誰でも分かる説明の文を作ろう」



理科「季節と生き物」



算数科「分数÷分数」



授業後のリフレクション